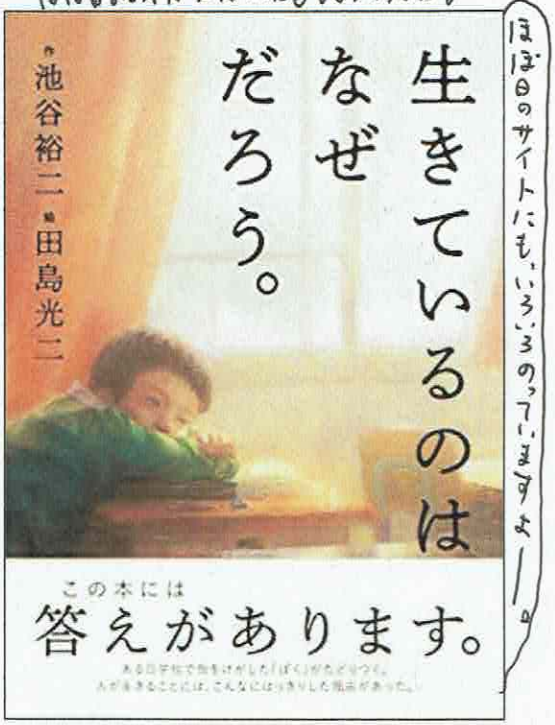
新 モリモリ書店

令和元年度　愛知教育大学附属岡崎中学校　読書だより

ドラマ『インハンド』のも なかなか気合入ってますね。

第11話　　R1.5.23(木)
「この答えをあなたは どう受け止めますか。」

ほぼ日絵本は『かないくん』のもよかったね。



ほぼ日のサイトにも、いろいろのっていますよ！

★今回、紹介する本は、『**生きているのはなぜだろう。**』（著/**池谷裕二**、絵/**田島光二**、出版/ほぼにちの絵本）です。

「**ほぼ日**」から出版された最新絵本。脳の研究で有名な**池谷**さんが、海外で活躍するアーティストの**田島**さん（映画『ヴェノム』や『ファンタスティック・ビースト』のコンセプトアートをつくった人）と奇跡的にタッグを組み、なんともすばらしい絵本を届けてくれました。

テーマは、ずばり、「**生きるとはどういうことか**」。しかも、帯にあるように、「答え」がしっかり書かれている。よくありがちな精神論や社会学的なところから語るのではなく、池谷さん流の切り口で答えを示してくれます。

でも、じゃあ、その答えに納得できるか。というと、それは人それぞれで、逆に、**そこから新たな問いが生まれます**。みんなで話し合いたくなるというか。また、この本は、装丁の質がよく、絵がすばらしすぎるので、手にとらないともったいないです。

『生きているということは、からだに秩序（ちつじょ）があるということなんだ。』（p.13）

「秩序」がひとつのキーワード。

この「答え」からたくさんの問いが生まれていくのでしょう。

絵がすごい。特別な紙をつかった装丁で、色のうつり方もすばらしいです。ぜひ生でみてほしいな。お値段ちょっと高いけど……。

『そう。だから生きなくては。』（p.47）